

祝 辞

理事長 柳谷 孝

本日ここに、卒業ならびに修了を迎えられる皆さん、このたびは誠におめでとうございます。明治大学で研鑽に励まれ、それぞれの課程を修めて学位を取得されたことに対し、深く敬意を表します。また、これまで卒業生を支えてこられたご家族やご列席の皆様にも、心からお慶びを申し上げますとともに、本学へ賜りました多大なるご理解とご支援に対しまして、学校法人明治大学を代表し、厚く御礼を申し上げます。

ところで、皆さんは「バウンダリースパナー」という言葉をご存じでしょうか。直訳いたしますと、「越境者」や「境界を越える人」となりますが、近年は組織や立場といった様々な境界を乗り越えて、新たな価値を創造する人材のことを表す言葉として注目が集まっています。例えば、皆さんも良くご存知のグローバルカンパニーであるソニーグループの十時社長は、就任以来、度々社員に対して「バウンダリースパナーたれ」と語っています。では、なぜ今、この「越境する力」が求められているのでしょうか。

現代社会に目を向けますと、ChatGPT に代表される生成 AI は、あっという間に私達の生活に身近なものとなり、ビジネスの世界においても商談から生産管理そして経営戦略に至るまで、あらゆる仕事に対して自ら考え行動することのできる「AI エージェント」と呼ばれるシステムの実用化が始まっています。更には、人間と同等、あるいはそれを超える汎用的な知的能力を持つ人工知能「AGI」までもが近い将来に実現すると予測されています。こうした革新的な技術によって我々の生活は劇的に利便性を増していく一方、各地で絶えることなく繰り広げられる戦争や紛争そして国際秩序の混乱は、世界の分断を一層加速させるとともに、資源価格や為替市場など経済にも大きな影響を与え、国際社会には不透明感と緊張感が増しています。このように未来予測が困難で複雑化した社会の課題を解決するためには、既存の価値観や枠組みにとらわれずに多様な視点を持って他者と協働すること、つまり様々な境界を乗り越えることが不可欠なのです。

もちろん、今この場で「自分はバウンダリースパナーになることができる」と自信をもって答えられる方は多くはないでしょう。しかしながら皆さんの大学生活を振り返ってみてください。サークル活動や部活動では世代を超えた仲間と目標に向かって取り組み、ゼミや研究室では異なる意見と向き合い議論を重ね、アルバイトでは社会の現場で社会人や顧客といった様々な立場の人々と関わりました。更に留学を経験された方は、言葉や文化の壁を越え、学びそして友情を築いたことでしょう。こうした経験を通じて、皆さんはバウンダリースパナーとして必要な力を育んできたのです。これこそ、本学が理念として掲げる「『個』を強くする」ことに他なりません。卒業後の新たな環境で仕事や研究に励むことはもちろんのこと、世界で起きている様々な問題や課題に当事者意識を持ち、今後社会はどうあるべきか、そしてその実現のために自分自身は何をすべきなのか能動的に考えを巡らせてください。そして、国や人種の違いを超えて協調し、人類と地球環境との調和した未来を創造することに、皆さん一人ひとりがバウンダリースパナーとして貢献してほしいと切に願っています。

結びになりますが、本学の在学学生は大学院生も含め現在約3万6千人おり、そのうち奨学金を利用している学生は、延べ約1万4千人に上ります。こうした学費面はもちろんのこと、学内の各種施設整備や体育会各部の活動などについても、校友やご父母をはじめとした多くの方々のご寄付によって支えられています。本日卒業される皆さんも、今後社会でご活躍いただき、その暁には、未来の担い手となる後輩学生達へ手を差し伸べ、寄付という名の紫紺の襷を是非繋いでいってください。明日の明治大学を創るのは、明日の皆さんなのです。

本日の新しい門出に際し、皆さんの前途に幸多きことを心より祈念いたし、祝辞といたします。ご卒業、誠におめでとうございます。

祝 辞

校友会長 北野 大

卒業生の皆さん、本日はご卒業、ご修了誠におめでとうございます。

海外留学等、種々の理由から卒業が半年伸びましたが、長い人生の中では半年くらいは全く無視する期間です。それよりも頑張って卒業や修了に繋げた皆さんの努力とそこから得られた自信が、今後の人生の大きな糧になります。

校友会を代表し、皆さんを新会員として心から歓迎いたします。

校友会活動の目的は母校を支援し、校友同士の親睦を図ることです。現在、校友会は全国54県単位支部及び韓国と台湾の外国2支部、さらにその傘下に市町村レベルで全国223もの地域支部が組織されています。ぜひとも総会はじめ種々の活動に御参加ください。多くの先輩たちが皆さんの出席を心から歓迎します。また同時に皆さんは明治大学を卒業してよかったと感じると思います。

皆さんは難関の明治大学に入学し、そこで学びそして今後も明治大学卒の看板を背負って生きて行きます。大事なことはこの看板に恥じない生き方をすることです。そしてこの生き方の中にぜひとも「おかげ様」という感謝の心と、「お互いさま」という相手を許すところを加えていただきたいと思います。

本日は誠におめでとうございます。